

家庭画報

2

February 2015

KATEIGAHO

冬の温泉郷

を訪ねて

城崎温泉、修善寺温泉、奥飛騨温泉
天草下田温泉、箱根強羅温泉ほか

特別取材

ヴェルサイユ宮殿

王妃の秘められた物語

別冊付録

二〇一五年に運氣を呼び寄せる

開運・招福術

椿招福占い／「王妃」占い

聘珍樓「家庭画報開運コース」ほか

平成生まれの八人のプリンスが集結

歌舞伎界の若き獅子たち

中村歌昇、坂東巳之助、中村耆太郎、坂東新悟ほか

50代から生涯健康計画を立てるための
アンチエイジングドックのすすめ

魚介の軽やかグラタン

世界に誇る
日本の木家具—その技と心

〈新連載〉「兄と弟の肖像」
松岡宏泰 + 松岡修造

〔東宝東和社長・東宝取締役〕〔プロテニスプレイヤー〕

〈追悼特別企画〉

Carnet

カルネ
IN
HONG KONG

香港&神戸から世界へ—— 二人の女性デザイナーが作る 東洋の宝石

監修・文／山口遼（宝飾史研究家）
撮影／鍋島徳泰 コーディネーター（香港）／ジヨイスワン



前回お話ししたように前回お話ししたように

上上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・醤油焼きした鰻を鰹だしの煮汁でいただく「うなべ」は夏の人気料理。下右・房州産の鰻を土佐造りで上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・

縦横無尽に力強く煌めいて

どの分野でも同じことですが、本当に最先端に行く作品を作っている人は、ひっそりと、あまり人目につかない所で黙々と仕事をしています。ジュエリーの世界でも同じ、ここに紹介するのは、なんとアジアからの女性二人。世界のプロたちが目を剥く作品を送り出しているデザイナーです。



前回お話したように前回お話したように

上上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・醤油焼きした鰻を鰹だしの煮汁でいただく「うなべ」は夏の人気料理。下右・房州産の鰹を土佐造りで上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下

Carnet

カルネ
IN
HONG KONG



前回お話ししたように前回お話ししたように

上上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・醤油焼きした鰻を鰹だしの煮汁でいただく「うなべ」は夏の人気料理。下右・房州産の鰹を土佐造りで上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下

前回お話ししたように前回お話ししたように前回お話ししたように

日本と言う国は、ことジュエリーに関する限り世界の異端児である。とにかく、飛鳥や奈良の時代から明治の始めまで、ほぼ千数百年に渡り、ジュエリーと言えるものはほとんど存在しなかった。広い意味での装身具ならば、髪飾りなどはあったが、少なくとも貴金属の加工と宝石を伴うジュエリーは存在していない。これほどにジュエリーを使わなかった民族は世界中、日本以外にはない。その理由はまったく分からない。

その日本人が、幕末の大政奉還と共に、いきなり西欧化のなかに放り出され、和服から洋服へと衣服を着替えるのと同時に、すぐにジュエリーを使わねばならなくなった時の困惑はどんなものだったのだろうか。当時の写真を見ると、いかにもぎこちなく洋服を着てジュエリーを付けた女性像が残っている。し

その日本人が、幕末の大政奉還と共に、いきなり西欧化のなかに放り出され、和服から洋服へと衣服を着替えるのと同時に、すぐにジュエリーを使わねばならなくなった時の困惑はどんなものだったのだろうか。当時の写真を見ると、いかにもぎこちなく洋服を着てジュエリーを付けた女番性像が残っている。しかしも番番つと不思議なのは、この頃からわずか百年の後の1970年代には、このジュエリーをまったく知らなかった日本が、世界で

目のジュエリー消費大国になり、女性一人あたりの消費額では、世界一となったことだろう。我らが先祖様たちの変り身の早さと、新しいものへの関心の高さには驚かざる。近世の日本のジュエリーは皇室とともに始まった。明治政府の基本政策は、いち早く西欧に追いつくことにあった。廃刀令、お歯黒の禁止、断髪令など、日本古来の風習を廃しながら、一方では鹿鳴館に見られるような西洋の模倣が基本であった。初期の皇室が使うジュエリーは、多くが欧州から輸入されたものであり、貴族たちのものもまた輸入品であったのだが、日本人がジュエリーを自ら作り出したのは意外と早い。1873年にウイーンで開かれた万国博には、すでに金の装身具を出品しており、東京を中心として金銀細工を手がける店が相次いで開業している。しかし、こうした店の仕事は、一般の人々への、ほとんどがコピーに近いジュエリーが主で、皇室や貴族たちのものは未だに輸入品が中心であ



1 上上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・醤油焼きした鰻を鰻だし2の煮汁でいただく「うなべ」は夏の人気料理。下右・房州産の鰻を土佐造りで上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下

ミシェル・オンさん

上上・国立劇場近くの「津之守坂よねやま」は「歌舞伎などを観た後の遅い時間でも、おいしい食事ができるのが嬉しい」とキャンベルさん。カウンター割烹のライブクッキングもお気に入り。下左・醤油焼きした鰻を鰻だしの

